

第三回仙台市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会議事録

日 時 平成 27 年 9 月 14 日（月）午後 1 時 30 分より

場 所 仙台市役所本庁舎 2 階 第 2 委員会室

出席委員 阿部重樹委員 大瀧正子委員 折腹実己子委員 小岩孝子委員 小菅玲委員
島田福男委員 鈴木孝男委員 中田年哉委員 中村祥子委員 根本勁委員
諸橋悟委員 渡邊礼子委員 (計 12 名)

欠席委員 庄司健治委員 渡邊純一委員 (計 2 名)

事 務 局

◎健康福祉局	村上 健康福祉部長	石澤 参事兼社会課長
	白山 総務課長	高橋 障害企画課長
	小野 障害者支援課長	星 高齢企画課包括支援係長(代理出席)
	小林 介護予防推進室長	宮野 介護保険課長
	斎藤 健康政策課長	
◎子供未来局	川股 総務課長	大森 子育て支援課長
	野中 運営支援課企画係長 (代理出席)	
◎宮城野区	伊藤 保健福祉センター管理課長	

オブザーバー

◎社会福祉協議会	大浦 地域福祉課長	高橋 地域福祉係主任
----------	-----------	------------

担 当 課 健康福祉局健康福祉部社会課

- 次 第
1. 開 会
 2. 議事録署名人の指名
 3. 報 告
 - ① 第 2 期仙台市地域保健福祉計画の評価
 - ② ワークショップの取り組み状況
 - ③ その他
 4. 議 事
 - ① 第 3 期地域保健福祉計画の素案
 5. その他
 6. 閉 会

事前配布資料

- 資料 1 第 2 期仙台市地域保健福祉計画の評価について
(平成 26 年度 重点施策評価シート)
- 資料 2-1 第 3 期仙台市地域保健福祉計画及び第 4 次地域福祉活動計画策定過程における
ワークショップ(第 3 回、第 4 回)開催について
- 資料 2-2 第 3 回ワークショップ(8 月 18 日 茂庭台地域)のまとめ
第 4 回ワークショップ(9 月 3 日 復興公営住宅支援者関係)のまとめ
- 資料 3 地域包括支援センターにおける個別ケア会議開催実績
- 資料 4 第 3 期仙台市地域保健福祉計画(素案)

机上配布資料

- ① 座席表
- ② 第 3 期仙台市地域保健福祉計画策定に関する意見 (様式)

会議内容

1 開会

【事務局（社会課地域福祉係長）】

第3回仙台市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会を開催する。

2 議事録署名人の指名

（名前の50音順のとおり、阿部重樹会長が小岩孝子委員をもう一人の議事録署名人として指名する。）

3 報告

【阿部重樹 会長】

初めに、第2期仙台市地域保健福祉計画の評価について、事務局より報告をお願いします。

【石澤健 参事】

（資料1により説明）

【阿部会長】

今回の分科会の内容に限定せず、第1回、第2回の分科会で委員の皆さんからいただいた意見を合わせて、総合評価に結び付けていきたいという説明であったが、何か質問事項等はないだろうか。

【渡邊礼子 委員】

自己評価シートの項目6-(2)に、「連携したかったができなかった相手」とあるが、「なし」と書いてある箇所と何も書いていない箇所がある。これはどのように区別をして取り扱っているか伺いたい。また、連携したかったができなかったという評価について、これはどういう理由によるものなのかも聞かせていただきたい。

【石澤参事】

1点目、それぞれの担当課が記入したシートを集約しているため、表記が統一できていなかった。特に違いがあるとは考えていないので、次回分科会まで修正したい。次に、連携したかったができなかったというのは、事業を効果的に進めていくために当初連携を図ろうとしていたが、26年度内に到達しなかった場合について、担当課から厳しく評価を付けていただいた。次年度以降は、機会をとらえて連携を進めていくよう取り組んでいるので、27年度評価の際にはまた違ったものになると考えている。

【阿部会長】

よろしいか。次に報告2つ目の、ワークショップの取り組み状況について説明をお願いします。

【石澤参事】

(資料 2-1、2-2 により説明)

【阿部会長】

今説明のあった件について、何か質問等ないだろうか。

今のところないようなので、今回のワークショップのファシリテーターを務めていただいていた鈴木副会長に、意見や感想をいただきたいと思う。

【鈴木孝男 副会長】

2 回目のワークショップに引き続き、3 回目、4 回目についても自分が司会進行を務めさせていただいたので、所感を述べさせていただく。

まず第 3 回目の高齢者福祉に関する議論であったが、資料にもある通り、一つ一つの課題そのものが高度な課題解決のノウハウを要するものであり、このような専門化した課題にどう対応していくのかが直近の課題であると感じた。また資料 2-2 にある通り、福祉の課題のみならず、町内会の問題などコミュニティの課題についても同時に議論されており、福祉的な課題とコミュニティの課題が連動して進行しているという状況がうかがえた。こうした二つの課題にどのように対処するべきか考えると、地域住民・地域団体・行政等の、情報共有と連携の仕組みを構築していくべきだろうと思う。同様に、担い手の問題についても短期中期で解決していく方策を戦略的に導入していく必要があると感じた。

4 回目の復興公営住宅に関するワークショップについてだが、現在仙台市には 37 地区 3200 戸の復興公営住宅ができており、その中の 17 地区に支援者会議が設置されていると聞いている。将来的には全地区に支援者会議を設置する方向で動いているようだが、今後の方針として、様々な団体が個別の地区の支援者会議に一つ一つ対応するのではなく、一体的に対応していくような体制を構築しつつあると現場に関わっている人たちから伺った。ただ復興公営住宅の問題も非常に多様化しており、その課題・問題は流動的である上に、短期間でどんどん変化していくことが想定されるため、今後復興公営住宅のニーズをタイムリーに把握していく必要があるという印象を受けた。また復興公営住宅は中高層の集合住宅が多いが、これは構造的に入居者が外に出にくく、入居者同士が交流しづらい状況にあるため、どのように住民の方に外に出てきてもらいコミュニケーションをとっていくべきだろうかという問題提起があった。参加者から提示された解決策の一つとして、受け入れ地域の子供たちから公営住宅の入居者宛に、ラブレターやウェルカムレターといった手紙を送って、地域行事への参加を促している地域があると伺った。これは私自身も非常に勉強させていただいた。子供に迎え入れられれば入居者の方々もおそらく参加しやすいだろうし、子供たち自身に地域への関心・興味を促す教育的効果もあるため、他の地域にも応用できるのではないかと感心した。こうした例のほかにもさまざまなアイデアが数多く出ていたので、今回の計画にもうまく答申できるのではないかと考える。情報量が多く読み込むのは大変かもしれないが、委員の方にはぜひ目を通していただいたい。

【阿部会長】

ありがとうございました。鈴木副会長のファシリテーターとしての見解、意見を踏まえて、他の委

員の方からもご意見をいただきたい。

【渡邊委員】

私は第1回、第2回、第4回のワークショップに、オブザーバーとして参加させていただいた。1回目は地区社協の役員や町内会長が参加した会議であり、2回目は大学の学生や教師・職員が参加するワークショップであった。3回目はあいにく所用で出席できなかったが、まさしく地域福祉そのもののワークショップであったと聞いている。そして4回目が復興公営住宅の支援者が集まった会議であったが、すべてのワークショップにおいて、事務局である社会課職員たちが、参加者から一つ一つ意見を聞き、課題から対応策までもらさず意見を拾っている。この資料には参加者の生の意見そのままが載っており、非常に貴重な資料だと思う。私も会議に参加させていただいて、様々な意見を直接伺ってきたが、計画策定委員として大変参考になった。以下3,4回目で特に気になった意見について一部だけでも紹介させていただく。

まず参加はできなかったが、3回目のワークショップに出たという、包括支援センターを中心とした地域連携という対応策が非常に興味深かった。趣旨としては、今まで地域内での連携をどのようにとればいいかわからないという地域の声や問題意識があったが、包括支援センターのケア会議などに、多くの社会資源や住民を入れていくと、地域の連携が進むのではないだろうかという内容である。第3回の茂庭台ワークショップがまさにそうした機会だったと思うが、例えば認知症の人が家を探して路上にいる場合などに、包括支援センターの人たちと連携をとることが非常に重要だと考える。具体的にどのように連携を取っていくべきかについて、誰かがこうした機会をとらえて話し合いを重ねることで、地域が開けていくのではないか。

それから復興公営住宅のワークショップに関してだが、まだ入居して間もないこともあって、住民同士が個になっている状況がうかがえた。入居した方がいいが隣にだれがいるかわからず、ドア一枚で地域とのつながりが断たれてしまうという意見があった。地域内でも様々な対策を立ててはいるようであるが、例えばサロン活動などに自分から参加するきっかけや機会などがなかなかつかめず、最終的には孤独死などの痛ましい結果につながる可能性がある。こうした地域とのつながりの希薄化について、どうにか解決できないものかと80歳代の参加者の方から直接お聞きし、深刻な課題であると実感した。

このような現場の意見を踏まえた課題と対応策がこの資料に書かれているが、参加者の意見に共通しているのは、CSW だけではない支援者の存在や、支援者間の連携が今後非常に重要になってくるのではないかということであった。改めてご報告とさせていただきたい。

【阿部会長】

渡邊委員から、委員の立場から3回出席していただいた会議の様子を紹介と、本題・課題がどこにあるのかのご説明をトピックス的にいただいた。本日の資料を熟読いただきたいという点は鈴木副会長と共通すると思われるので、各委員においてもお目通しをいただき、気づいた点についてはFAX等で意見いただきたい。

他にないので、次の報告を事務局にお願いします。

【石澤参事】

(資料 3 により説明)

【阿部会長】

前回庄司委員から補足説明の依頼があった件についての報告だったと思うが、各委員から何かないだろうか。

(意見等なし)

【阿部会長】

特にないと判断して、次に進める。続けて第 3 期地域保健福祉計画の素案について、事務局より説明をいただく。

【石澤参事】

(資料 4 により説明)

【阿部会長】

ただいま事務局から説明があったが、今回特に重要と思われるのが、17,18 ページ、及び 29 ページ以降であると考えます。もし可能であればそちらに焦点を絞って意見・質問をいただきたい。もちろんその他の部分でもまったく構わないが、よろしくお願いします。

【折腹実己子 委員】

まず 3 ページ目 (3) の表題に、「地域保健福祉活動計画」とあるが、地域福祉活動計画の誤りであると思うので修正をお願いしたい。

【石澤参事】

ご指摘感謝する。

【折腹委員】

次に、18 ページ(5)の後半部分にある、「時代に即した」という表現について、自分だけ気になるのかもしれないが、どういう風に理解すればいいのかご説明願いたい。

【阿部会長】

まず事務局にはどういう意味を込めてこの表現としたのかご回答いただきたい。

【石澤参事】

例えば、将来的に人口減少・超高齢化社会を迎えることを踏まえ、今後の実情を把握し、必要な予測をして施策を展開していきたいという思いで、時代に即したという表現をさせていただいた。

【阿部会長】

次に折腹委員には、どういう解釈も可能だろうということで、ご質問いただいたのか伺いたい。

【折腹委員】

おそらくそういう意図だろうとは思っていたが、時代に即したというとポジティブなイメージがあるのではないかと感じる。抱えている課題が解決困難であるため、そのことに対して時代というと、前向きで明るい印象があってそぐわないように感じる。また、例えば昭和とか平成時代といったような別の意味合いでとらえられてしまうかもしれないし、もう少し対象を絞った表現はないものだろうか。

【阿部会長】

事務局は新しい状況に対応していくという意味でこのように表現しているが、確かに時代というともう少し幅の広い意味で解釈される可能性があるので、表記の仕方にもう一工夫をお願いしたい。

【石澤参事】

次回、中間案を整理する際に修正案をお示ししたい。

【折腹委員】

次に、31 ページのリーダー・コーディネーターの育成について、最初の施策の方向性 2-1 に CSW の記載があるが、この内容だと非常に多様な役割を持たせる必要があると考える。現在は被災者の支援を中心業務として社協に 11 人配置されているが、この人数で計画に記載されている多様な役割を担わせられるか疑問である。増員や体制強化ということも明記する必要があるのではないか。仮に増員について言及すれば、計画を読んでいて CSW の活動が非常に活発になることについての印象が強くなると思うが、いかがだろうか。

それから、32 ページの施策の方向性 2-3 の中に、相談支援機関によるコーディネート機能の強化、人材の育成という項目があり、白丸 1 つ目に地域包括ケアシステム構築のことが書いてある。方向性としては間違っていないと思うが、すでに地域包括支援センターに生活支援コーディネーターという職員がいるので、この計画に記載されているコーディネーターが、地域包括支援センターの生活支援コーディネーターを指すものなのか現場で多少混乱する可能性がある。同じコーディネーターという言葉があるので、それが別々のものであるのかどうかの整理が必要であると思う。

【阿部会長】

まず施策の方向性 2-1 で、CSW による地域支援活動と人材育成の促進について記載されているが、CSW そのものの養成や人員体制強化については明記しないのかという点が一つ。次に、生活支援相談員についての整理がないため、「コーディネーター」という単語について現場で混乱する恐れがあるという意見であったが、いかがだろうか。

【石澤参事】

まず CSW についてだが、ご指摘の通り現在復興公営住宅建設地域を重点支援地区として被災者支援に取り組んでおり、そのほかにも様々な地域課題に対して相談対応をしながら、各地区社協を中心とした共助の取り組みづくりに関わっているところである。次期計画は 5 か年ということで想定しており、CSW が重点支援地区で蓄積したノウハウを、復興の進行に応じて徐々に課題のある地区社協に投入していくことを想定しているが、現時点で体制の強化に努めるとは書ききれないため、少し具体的に読み取れなくなっているものとする。今回は素案ということでこの案をお示ししているが、CSW 事業は社協としても力を入れている取組であるので、今後の予算編成などの議論を進めていく中でもう少し具体的に整理できるものと思う。それから 32 ページのコーディネーターについても同様で、今のところ地域包括支援センターの半分ほどに、機能強化職員という人員を配置しているものがあるが、現時点では専任職員と記述させていただいている。今後担当課とも協議の上、次回お示しする段階でどのような言葉にできるか等、整理をして参りたいと思う。

【阿部会長】

担保となりうるものがはっきりしない現段階では、シャープに書ききれないという内容の回答であった。折腹委員の意見を尊重していただいたうえで、次回以降、書きぶり等について検討していただきたい。

【折腹委員】

よろしく願います。最後に、38 ページの施策の方向性 5-4、保健福祉サービスの充実という項目に、「既存の公的福祉サービスの評価等による見直しや拡充」という表現があるが、例えば 22 ページに記載されているように、現段階でも様々な団体や体制がすでに各地域に配置されていると思われる。そうした団体やサービスなどの不十分な点を、CSW や地域住民が改良・拡充していったら、既存のもので最大限の力を発揮していける環境を整えていくというのがこの項目の趣旨だろうと思う。そこで疑問となるのが、そういった担い手、団体、地域資源を、誰が把握してどこがどう足りないと判断するのかという点である。例えば評価基準とか前提条件が必要なのではないかと考えるが、そちらはどのように示されているのか伺いたい。

【阿部会長】

例えば実情にそぐわないサービスや団体、制度を取りやめて、そのリソースを新しい制度に向けようとする場合、誰が何をどういう風に評価するのかがはっきりしていないという意見であると思う。既存制度の改良を行う場合や、新たなサービスを創出する際に、判断の根拠となりうる、あるいは評価の根拠となる基準がないと、この項目に説得力が生まれないのではないかと意見だったが、いかがだろうか。

【石澤参事】

本計画は地域福祉だけではなく全体の部分ごとの方向性を示しているため、少し漠然としてわかりづらい部分があると思うが、例えば高齢者施策や障害者施策でも、それぞれの対象者別の計画の中で、

事業ごとに評価を行いながら必要な見直しを行うことを想定している。地域保健福祉推進に関わるものについても、本日資料1で示したような形で委員の皆様に評価をいただき、事業レベルでの見直しをしていくものである。それらを相対的、俯瞰的に記載したために、多少漠然としているのではないかと考えている。

【阿部会長】

相対的に記述したために漠然としてしまったという事務局の回答であったが、どう読み取られるか、どう受け止められるかに不安があるというのが、折腹委員の発言の趣旨であったかと思うので、ここは折腹委員とも意見交換しながら、さらにはっきりとした伝え方ができるような表記を検討していただきたい。

他にないだろうか。

【中村祥子 委員】

ここで議論すべき内容かわからないが一応発言させていただきたい。仙台市には多様な地域資源があるが、この資源は誰もが自由に意見を言えるものではないのが大半である。例えば場所の問題について例を挙げると、使用に当たっては管理運営している団体のルールがありきで、利用者はそのルール変更について意見を言える立場にない。今まで多様にあった資源のうち、有効に稼働しなかったものもあると思うが、その中には市民の使いやすいうようにルールを変更できればうまく動いたものもあるのではないだろうか。そのため、今回この計画の中に、規制緩和等の文言は盛り込めないものかお伺いしたい。市民の側からルール変更について踏み込むのは現状難しいので、そこについて本計画で言及していただければと思うが、こういったことになると議会、議員の役割なのだろうか。

また、生活困窮者や障害者、高齢者の、地域での働き場をどう創造していくのかというような具体的な方向性について、本計画では盛り込めないのだろうか。そうした方向性を盛り込んでいただければ、今後5年の計画期間のなかで、関係者が希望を持てるのではないかと思う。

【石澤参事】

規制の緩和についてであるが、例えば公の施設を使えるようにするとか、ルール変更をするという内容になると、今おっしゃっていただいたように議会の議決事項である条例や、その下にある規則を変更する必要があるので、本計画のみで市の全体を変えていくというのは難しいと思われる。ただ、地域福祉の分野で一つ取り組みとして書いていた項目があって、33ページの施策の方向性3-1、白丸の2つ目であるが、地域保健福祉に関する団体が活動拠点を確保する取り組みを促進するというものがある。これは現計画中に社協のモデル事業として行ってきたものであるが、地域の団体間で協議を行って、町内会の集会所やコミュニティセンターなどを地区社協の事務局にしようというような合意が形成されれば、備品の提供や常駐する人物の居場所作りなどの支援を行うというものである。現在は施策化して取り組んでおり、地域福祉の計画としては顔の見える関係の中で話し合いによって実現可能な部分を進めていこうと考えていた。

次に生活困窮者の取り組みについてだが、こちらは単独の計画があるわけではないが、関係団体ともすり合わせをしながら施策を進めているところである。本計画に記載する内容としては、総合的な

窓口を設置するとか、地域住民で生活困窮者を見過ごさずに、相談機関までつなぐ役割についてを載せていきたいと考えている。そのあとの就労支援などの具体的、専門的な道筋等については、それぞれの事業計画の中で整理されていくものであると思う。本計画においても具体的な内容に言及してしまうと、計画自体が膨大な量になってしまうと考えるので、全体の構成を考えるとこのような整理でよいのではないかと考えている。

【中村委員】

2 つ目の質問をした理由なのだが、私が代表を務めている NPO でも就労支援を行っているが、例えば障害がある方がいて、その人たちのためだけの就労の場を作るというのは、区別・差別につながる可能性もあるため、間違っているのではないかと最近感じ始めている。もちろん、特定の人のための特定の支援というのは個別には必要であるが、行政が主体となった開かれた働き場があって、そこに障害者、高齢者など様々な課題を抱える人たちとその支援者たちが共有・共同して働ける仕組みがあるといいのではないかと考えているので、ぜひ行政のほうでも検討していただければと思う。

【石澤参事】

例えば障害者自立支援法にもとづく就労の取り組みを参考にしながら、生活困窮者の中間的就労に取り組んでくださる事業所がまだ仙台には見つからないが、今おっしゃっていただいたような取り組みをしていただけるような事業所の発掘など、ご指摘の点も検討課題になっているところであるので、担当課で取り組んでまいりたいと思う。

【阿部会長】

1 点目、33 ページの内容についても、わかりやすさ、使いやすさを求めた説明になるよう、検討してもらいたい。ほかに意見はないか。

【小岩委員】

この素案を何回か読んでみて感じたことだが、非常に大切なことを多岐にわたって書いてあることはわかるのだが、委員の立場からどこまでこの施策にたいして意見を述べ、どういう形にまとめているのかがつかめなかったので、今後の分科会の流れや、最終的な着地点についてご説明いただきたい。

次に、23 ページに「誰もがそれぞれの地域で自立し安心して自分らしい充実した生活を送ることができるまち」とあるが、この自立に関してはどこにどのように書かれているのかが分からなかった。自分で探してみたところ、26 ページの基本的方向 5 に、誰もが自立し共生できるという文言があったので、そこを読み返してみると、バリアフリーの街づくり、就労支援などの幅広い視点に立った公的サービスの基盤づくりとあるが、ここが自立という言葉と関連しているのであれば、基盤づくりとは具体的にどういうものなのかを伺いたい。先ほどの中村委員の発言と重複する部分があるが、自立して生活するためには、場づくりが非常に重要となっており、入り込めない人が出てこないような、整備が整った場を行政が運営していくということが大切なのではないかと考える。また、関連して 26 ページの持続的かつ安定的に質の高いサービス提供というのは、具体的にはどういう内容なのかわからないので、そちらも聞きたい。

次に、CSW やコーディネーターによるネットワークというのが計画全体に記載されているが、これは実際にはどういう取り組みを行うものなのかお聞きしたい。例えばであるが、今日の午前中、私の事業所に障害を持っている 20 代の方が支援者とともにやってきて、別の事業所で働いてはいたがなかなかうまくいかなかったため、その事業所が私の事業所を紹介してつないでくれたということがあったのだが、こういう事例を言うものなのだろうか確認をしたい。ただ、こういうネットワークやつなぐ役割を我々が担うことで、はたして自立の支援になるのかどうか分からなくなってしまった。全体的に非常にいいことが書かれているが、計画の詳細が分からず、方向性につかめなため判断に迷ってしまうという印象を受ける。

4 点目、20 ページに書いてある地域住民の子育て、介護予防の自主的活動というのは、これはどのようなことを言っているのだろうか、どういう風にしていけばいいのかをお聞きしたい。今後具体的な事業の方向性をこの計画に追記するものであったらどうか。

最後となるが、地域包括のシステムの話で名前が出た生活支援コーディネーターについてだが、31 ページに養成と書いてあるが、実際に養成や教育を受けてきた人なのだろうか。実際お会いしてみるとそうでもない場合もある。これはこうした生活支援コーディネーターの制度そのものができて日が浅いためなのかもしれないが、現場の人間としては詳細が不明なまま計画の中にだけ記載されているという印象を受けるので、整理していただきたいと思う。

【石澤参事】

まず今後の計画策定についての進め方を説明させていただく。今回素案ということで、今まで論点、課題等説明してきた点について、取り組みや事業の方向性、素案を示させていただいているものである。今日いただいた議論・意見を集約して、10 月下旬から 11 月上旬に日程調整している第 4 回分科会において、次回中間案としてご議論いただく予定である。そこで再度議論いただきまとめた中間案を、市民にパブリックコメントや地域福祉セミナーなどでお示しするほか、議員に議会で説明することとなっている。最終的に、年明けには予算編成を踏まえて具体的な事業を含めた最終案を作成し、2 月に行う予定の分科会で委員の皆様にお諮りし、そこでまとまればそれで完成となる。さらに課題があればもう一度分科会を開催し、策定作業を進めてまいりたいと考えている。

【阿部会長】

29 ページ以降の書きぶりだが、今日のところは白丸で方向性を示しているが、具体的な事業が白丸に対応するような形で次回までには出てくるという説明だったと思う。そこをもう一度確認させてもらいたい。

【石澤参事】

次回 11 月の分科会では、今日ご議論いただいた内容をもとに白丸の内容を修正し、そちらを用いてパブリックコメントを行うことになろうかと思う。事業レベルで具体的な記載ができるようになるのは年明けの分科会になる。

【阿部会長】

事業の内容が出てくるのはもうしばらく先のことであるとのことだった。そのため、今回「努めます」とか「進めます」と書いてある部分について、具体的な事業・方法が出てくるのは年明け以降の分科会であるという内容の説明だったと思う。さきほど表現・表記が分かりにくいという小岩委員からの指摘があったが、その他委員の方からも、時代に即したという表現は多様な解釈が可能であるとか、自立という言葉がいきなり出てきても理解しづらいといったような様々な指摘をいただいたので、事務局にはさらに精査を加えていただきたいと思います。また委員の皆様には今日机上配布した用紙を利用して、気になる点についてはさらにご指摘いただきたいと思います。私も社会資源、地域資源という言葉について整理をつけたいと考えていたところであったので、あとでFAXを送らせていただく。

予定されている時間を多少過ぎていたので、議事については一応閉めさせていただく。小岩委員をはじめ、委員の方から指摘いただいた点を踏まえて、事務局には素案の内容を再検討していただき、次回以降示していただければと思う。

それでは次第の5、その他とあるが、まず委員の方から何かないだろうか。

【渡邊委員】

話題が多少戻ってしまうが、9月10日から11日にかけての大雨・水害について一つお願いをしたい。今回の計画にもある地域防災リーダーであるが、これには年齢制限がなく、高齢の町内会長や町内会役員の方がリーダーとなっているという現実がある。今回、私の地域でも小学校を避難所として開所するよう深夜0時に市から連絡があったが、80歳代の役員の方が出てこられて非常に体力的に辛い思いをされているところを目の当たりにした。ここで言うべきではないのかもしれないが、ぜひ仙台市としても、危機管理室を中心に考えていただきたいと思いますし、施策の方向3・3にある地域防災リーダーの育成についても、せめて60歳代、70歳代前半の中心を中心にお声掛けをしていただくようにしていただきたい。

また、今回避難情報はネットを中心に周知されていたが、高齢者にはホームページを開くこともできないし、それがひとり暮らしの世帯だと避難すらできないのが現実であると思った。実際避難所にいて感じたのが、若い人たちが来ている一方で、高齢の人たちは深夜0時ということもあってなかなかいらいしやらない、そもそも避難情報を知らないということがあったため、情報の伝達に課題が残ったものかと考えている。

今後災害時の防災リーダーに関してご検討いただければと思う。

【阿部会長】

お伝えいただきたいということだろうと思うが、事務局お願いしたい。

【石澤参事】

地域の実情として伝えたいと思う。この計画内でいうと、役員の固定化や担い手不足といったことが、現状として表れている事例だと考える。

【阿部会長】

よろしくお願いします。事務局からは何かないか。

【事務局】

事前送付資料の中に、次回分科会の日程調整用の用紙を同封させていただいていた。可能であれば本日まで提出いただきたいと思うので、よろしくお願いします。

【阿部会長】

本日は前回、前々回以上に熱心なご議論をいただいた。時間の都合もあってまた議論を打ち切る形になってしまい恐縮であるが、円滑な議事進行にご協力いただき感謝する。

それでは本日の議事の一切を終了し、事務局にお返しする。

【事務局】

阿部会長ありがとうございました。以上をもって本日の分科会は閉会とする。

以上